

アスベスト問題を概観する

一九八〇年代に始まった世界のアスベスト消費のパターンの変化は、新たな世紀になっても続いている。先進国ではアスベストを避けるようになってきているが、途上国では経済変化と産業の利害関係者による積極的な市場キャンペーンに対応して、消費が増大した。二〇〇七年初頭に発表された数値は、アジアのアスベスト市場の突出を明らかにしている。消費で最も高い割合を示している国々の九〇％はアジア諸国である(付録A)。二〇〇五年には、インドのアスベスト・セメント産業は世界のアスベスト消費の一〇％近くを占めていた。

アジアにおけるアスベスト使用の増大による影響は、それを回避することができることと同じように、予測することができる。アスベストが使用されれば、健康悪化、身体障害、死、そして環境汚染が伴う。危険な曝露の悲劇的な結果に関する工場監督官、被害者団体、そして労働組合による報告がなされてから数十年後に、科学者たちはついにアスベスト関連疾患のヨーロッパにおける流行の存在を確認した。同年(一九九九年)、全ての種類のアスベストの使用が欧州連合(EU)加盟国全体で禁止された^{***}。他の先進諸国のほとんども、この発がん性が認められている物質の使用を禁止するか厳しく制限した。残念ながら、アスベスト関連疾患の潜伏期間が長いということ、ヨーロッパのアスベストによる死亡は今後も数十年間続くことを意味する(付録B)。アジアではたった一か国だけがアスベストを禁止しているが、世界最大の産業殺人者への曝露は増大してい

* [原注1] とくに断りがない限り、ここに含まれる情報は、2006年7月26-27日にバンコクで開催されたアジア・アスベスト会議で発表された資料からのものである。重量単位のあるものはキログラムであり、あるものはトンである。消費量と生産量の数字の不一致は、広範なアスベスト問題に関するデータ収集がまだ不十分であるという事実を強調している。

** [原注2] Peto J, Decarli A, La Vecchia C, Levi F, Negri E. The European Mesothelioma Epidemic. *British Journal of Cancer* (1999); 79(3/4): 666-672.

*** [原注3] EUではアスベスト禁止指令(1999/77/EC)が1999年に発効したが、各加盟国のアスベスト禁止導入の期限は2005年1月1日であった。



るので、状況はますます悪くなっている。現在、アスベストに曝露している人々の大部分はアジア諸国に住んでいる。

写真上：2004年世界アスベスト東京会議（GAC2004:Global Asbestos Congress 2004 in Tokyo）2004年11月19-21日、東京・早稲田大学国際会議場、主催：GAC2004実行委員会

<http://park3.wakwak.com/~gac2004/>
<http://worldasbestosreport.org/gac2004/toc.html>

http://www.btinternet.com/~ibas/Frames/f_lka_gac_2004_online_report.htm

写真下：2006年アジア・アスベスト会議（AAC2006:Asia Asbestos Conference 2006）2006年7月26-27日、タイ・バンコク、主催：タイ政府公衆衛生省疾病管理局

http://www.btinternet.com/~ibas/Frames/f_lka_asia_asb_conf_aac_2006.htm